

令和8年度 図書館だより <第1号>

令和8年4月15日(水) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

読書推進運動協議会・若い人に贈る 読書のすすめ 2026

「若い人に贈る読書のすすめ」は、新たな一步を踏み出す若い人にぜひ読んでもらいたい本を紹介する運動です。読書推進運動協議会が毎年、昨年1年間に出版された本の中から24冊を選定しています。

読書推進運動協議会2026・若い人に贈る24冊を以下に紹介します。図書室の特設コーナーに展示していますので、ぜひ足を運んでください。

 <p>『給水塔から見た虹は』 窪美澄／著 集英社</p> <p>はじめてできた「ルーツ」の違う友達、母とのすれ違い。さまざまな判断に戸惑う2人の“こども”が、少しずつ“おとな”になるひと夏を描いた、ある青春の逃避行。</p>	 <p>『愛ちゃんのモテる人生』 宇井彩野／著 河出書房新社</p> <p>18歳のオープンリーゲイ愛は、とあるきっかけで動画配信を始める。10年以上にわたる“モテる”人生の記録。第5回室冴子青春文学賞大賞受賞作。</p>	 <p>『ロールモデルがない君へ』 キリーロバ・ナージャ／著 KADOKAWA</p> <p>自身と似たような「周りの子や親とはルーツが違う中で育ってきた人」に話を聞き、同じような違うルーツを持つ子どもたちと、その周りにいる人々へエールを贈る本。</p>
 <p>『これから大人になるアナタに伝えたい10のこと』 サヘル・ローズ／著 童心社</p> <p>貧困やいじめに苦しんだサヘル・ローズ。未来の大人に向けて、自分を愛し、他者と手を取り合って生きていくヒントが詰まった、サヘル流「人生指南書」。</p>	 <p>『あの時のわたし』 岡野氏／著 向井千秋／〔ほか執筆〕 新潮社</p> <p>すべての出来事が、必ず糧になる。各分野の第一線で活躍してきた27人の女性に聞く、時代に左右されない生き方のヒント。「暮らしの手帖」人気連載を書籍化。</p>	 <p>『あらすじと写真でわかる! はじめての歌舞伎』 利根川裕／著 世界文化社</p> <p>歌舞伎は「あらすじ」を知ればもっと楽しめる! 名作50選の観どころがまるわかり。初心者から古参のファンまで、歌舞伎の魅力を楽しみ尽くす一冊です。</p>
 <p>『月収』 原田ひ香／著 中央公論新社</p> <p>年金暮らしで月収4万円の66歳から、株や投資信託で月収300万円ある52歳までが織りなす、お金をテーマにした人間ドラマ! 原田ひ香の新作が登場です。</p>	 <p>『小説』 野崎まど／著 講談社</p> <p>「物語に救われ、読書に呪われた」君はなぜ、小説を読むのか? これはフィクション。しかし虚構ではない。読むことを愛するすべての「あなた」が主人公の、祝福の物語。</p>	 <p>『願わくば海の底で』 額賀滯／著 東京創元社</p> <p>東北地方沿岸部のある高校。そこで起こるささやかな謎の中心には、いつだって彼がいた。2011年の“あの日”を境に姿を消した、青年の生きた軌跡と鎮魂の物語。</p>
 <p>『隣人のうたはうるさくて、ときどきやさしい』 白尾悠／著 双葉社</p> <p>ココ・アパートメント一心地よい暮らしを作るために住人が協働するコミュニティ型マンション。多世代の心の交流を温かな筆致で描く。静かな感動を呼ぶ連作小説。</p>	 <p>『踊りつかれて』 塩田武士／著 文藝春秋</p> <p>「誰かが死ななきゃ分かんないの?」言葉が異次元の暴力になるこの時代。息苦しいほどの“正しさ”その先に待ち受けるのは、「赦されない」社会。</p>	 <p>『人よ、花よ、(上・下)』 今村翔吾／著 朝日新聞出版</p> <p>誰かのために散ってよい命などない。終わらぬ南北朝の戦い。その命運を握る楠木正行の「願い」は叶うのか。朝日新聞連載の歴史巨編、待望の単行本化!</p>
 <p>『僕には鳥の言葉がわかる』 鈴木俊貴／著 小学館</p> <p>鳥は感情で鳴いていると認識されていた「常識」を覆し、「シジュウカラが20以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを解明した研究者による科学エッセイ。</p>	 <p>『AIに書けない文章を書く』 前田安正／著 筑摩書房</p> <p>AIが文章を生成する時代に、私たちはいかにことばと向き合っていくのだろう。ベストセラー『マジ文章書けないんだけど』著者と探求する書くことの意義と技術。</p>	 <p>『苦手な読書が好きになる! ゼロからの読書教室』 読書猿／著 NHK出版</p> <p>読むのが遅い、面倒くさい、何を读んだらいいのかわからない…。そんな、読書にまつわる悩みの数々を、「正体不明の読書家」読書猿が一挙に解決!</p>
 <p>『まず良識をみじん切りにします』 浅倉秋成／著 光文社</p> <p>世界にはまだまだ明らかになっていない秘密があります。気付くも気付かないも、あなた次第です。日々の違和感を増殖、暴走させてたどり着いた前人未踏の傑作集。</p>	 <p>『好きな食べ物がみつからない』 古賀及子／著 ポプラ社</p> <p>自分のことは、いちばん自分が、わからない。どうでもいけどけこう切実。放っておくと一生迷う「問い」に挑んだ120日を描いた自分観察冒険エッセイ。</p>	 <p>『投資で2億稼いだ社畜のぼくが15歳の娘に伝えたい29の真実』 東山一悟／著 JTBパブリッシング</p> <p>50歳でリストラされ、投資で2億稼いだ彼は、いかにして大輪のFIREの華を咲かせたのか? 数々の失敗と成功を明かし、凡人ならではの投資術を余すところなく公開。</p>
 <p>『運命を変えるチャンスはなぜか突然やって来る』 今村翔吾／著 岩波書店</p> <p>やりたいことが見つからない、夢を叶えるために何をすればいいのかわからない…。そんな君たちへのメッセージ。夢に向かって一歩踏み出す勇気が湧いてくる一冊。</p>	 <p>『17歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。』 びーやま／著 ダイヤモンド社</p> <p>チャンネル登録者60万人の超人気YouTuberが書き下ろし! 勉強方法から大学選びまで、学校では教えてくれない情報を徹底的に詰め込んだ唯一無二の書。</p>	 <p>『大学4年間を「応援」に捧げた私が古生物学者になった話』 泉賢太郎／著 理論社</p> <p>古生物学者を目指すはずが、大学で「応援部」に熱中。同級生に実力で大きく差をつけられた著者は、応援で培ったガムシャラさを武器に、なんとか挽回を図り…。</p>
 <p>『ごめんなさいの練習』 林健太郎／著 PHP研究所</p> <p>やっちゃった「あと」が人間関係の最大の分岐点! 身近な人との「ぎくしゃく」が9割なくなる対話術、関係修復術が身につく一冊。</p>	 <p>『言いたいことが言えないひとの政治学』 岡田憲治／著 晶文社</p> <p>ふだんづかいの対話術を、政治学の知恵をつかって考えていく。個人・集団・社会にたいして、自分の思いを届ける技法とマインドを惜しみなく提案する一書。</p>	 <p>『13歳から挑むフロンティア思考』 宮下芳明／著 日経BP</p> <p>イグ・ノーベル賞を受賞した著者による「問題解決」の力を育てる本。フロンティア思考を身につけるための方法論と心構えを、わかりやすい例を挙げてお伝えします。</p>